

担い手づくり部門(ア)

山形県大江町 わたなべ 渡辺 せいいち 誠一 氏



作付面積：10.3ha(すもも4.1ha(出荷用2.5ha、育成園1.5ha、苗木0.1ha)、水稲4.5ha、大豆1.0ha、りんご0.2ha、西洋なし0.2ha、もも0.1ha、そば0.1ha、しいたけ0.1ha)

<取組概要>

「日本一のすもも農家」になることを目標に、栽培を通じた地域貢献や担い手育成による農地の保全と地域活性化を实践。すももの他に桃やりんごの果樹や水稲・椎茸を栽培し、農作物の通年出荷を実現。

すももにおいては、晩生を中心に14以上の新品種系統を育成しブランド化を図るなどして、他のすもも産地との差別化を実現。また、雪害に強く、早期に多収が可能で作業性に優れた樹形「主幹形仕立て」を自ら開発し、管内において広く導入。

地域農家の高齢化により、地域だけでは農地の維持や農業の発展は難しいと考え、渡辺氏が中心となり農家自らが県内外から新規就農希望者を受入れて組織的に育成する「大江町就農研修生受入協議会(OSINの会)」を2013年に設立(渡辺氏が会長)。

協議会は、12軒の農家が独立就農を見据えた様々な作物の栽培管理研修を2年間実施することに加え、研修生・独立就農者自らが研修テーマを設定する勉強会を定期的に開催。

研修終了後の独立就農を後押しするため、渡辺氏が大江町に働きかけて新規就農者が利用できる住居や共同利用機械・施設を整備することで、協議会の研修生19名のうち17名が就農(うち大江町に就農した11名全員が県外出身者)。周辺市町村に新規就農者の受入協議会が発足するなど、担い手育成・定着の手法としてモデルとなっている。